

1994年8月4日
HSK 毎月12回(1)
3. 第三種郵便物承認
5.
8.
10.
13.
15.
18.
20.
23.
25.
28日
発行



石川県肢体不自由児協会
石川県肢体不自由児者父母の会連合会
第50号
令和6年4月10日

令和6年能登半島地震に際して

このたびの能登半島地震により、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。
また、被災者支援と被災地の復興支援のためにご尽力されている多くの方々に深い敬意と感謝を表します。

地震翌日から会員さんの安否確認に取り掛かり、4日の役員会にて対応を協議しました。その結果、会員さんのご家族には亡くなられた方、大きなケガを負った方はいなかったことがわかり安堵したものの、住み慣れた家を無くして地域の避難所での生活を余儀なくされたご家族がいます。

障害のある子連れ避難すること、多くの避難者と同じ避難所で生活することの困難は察するに余りあります。厚生労働省や子ども家庭庁からはこれらの人たちへの配慮を各自治体へ通達していますが、これほどの災害では現場で実行されることは難しいと思われます。そのような中でも避難所の運営や雑用まで率先して引き受けている会員ご家族もいます。本当に頭が下がります。

3月に入り高田事務局長が、会員の皆様及び全国の父母の会からお預かりした義援金と支援物資を届けるために能登へ向かいました。テレビや新聞等で幾度と見ているものの、実際に目にするの大変な状況を思い知らされたと言います。復興にはまだまだ時間がかかります。被災した方々が安心・安定した生活に戻るまで支援を続けていきたいと思います。

私自身も珠洲市で生まれ、幼少期まで暮らしていただけに特別な思い入れと愛着があります。実家は倒壊し、親戚のお父さん、いつも一緒に遊んでくれた両隣の家のお兄ちゃん達、みんな家の下敷きになって亡くなりました。田舎で暮らすお年寄りが一年で最も待ち遠しい日に、こんな大惨事が起こるとは・・・。

「能登はやさしや土までも」そんな言葉を何十年も実感してきた私にとって本当に辛い年の始まりとなりましたが、一方で全国から自衛隊員・警察官・消防隊員・災害支援チーム・医療支援チームなど多くの皆さんが復旧、復興支援にご尽力頂いています。輪島市内のクリニックに勤める知り合いから聞いた話ですが、発災直後から現地に入った県外からの医療支援チームのドクターが「何でもします」と言って、一次避難所の衛生面の改善のためにと、自ら率先してトイレの便器の清掃をはじめたり、最後の一人が退所するまで残ってくれたことなどを聞き、地元の私たちが落ち込んではいられない、と意を新たにしました。

高齢化、過疎化が進む能登がこの先どのように復興していくのか。様々な困難が待ち構えていると思いますが、応援してくれる皆さんに恩返しができるよう、被災者とともに頑張っていきましょう。



石川県肢体不自由児者父母の会連合会
石川県肢体不自由児協会 会長 松田郁夫

門前・輪島会員さんより

門前町 菊地 敬子

令和6年1月1日夕方、まさかまさかの巨大地震。しかも17年前の地震よりも激しい揺れに襲われるなんて誰が思うでしょうか。リビングにいる私の横に座っていたのは長男でした。17年前と同様長男を抱きかかえ、どこから飛んでくるかわからないもので怪我しないようじっとしているのが精一杯。強いのが収まった後は余震の中での大津波警報。これが本当に怖かったです。そのあとすぐに靴、カイロ、車のカギ、貴重品、水、タオル、携帯電話、充電器、ティッシュ等をもち、外に出て徒歩で高台の避難場所へ。元旦ということで帰省している方も多く、避難場所は人でごった返していました。こんな新年を迎えるとは。夜には近くの保育所・公民館が避難所として利用できるようになり、その夜から避難所生活となりました。1日目公民館横で車中泊、2日目公民館内、3日目車中泊、4日目以降公民館内。非常事態であることは長男も十分理解していて、3日間は眠れませんでした。4日目以降少しずつ眠れるようになりました。

日中、主人と次男は水を汲んだり物資関係の手伝い、私は台所で炊き出し、長男は廊下に敷かれた畳に座って一日の大半を過ごしました（娘が横についていた）が、6日目から長男を台所に入れました。どうせ座ったきりになるなら、いろんな人が集まり楽しく会話が飛び交う所がいい、そう思ったからです。台所に入るようになってから長男に笑顔が戻り、会話も弾むようになりました。それでもストレスはたまっていくので、時々それが爆発してひっくり返って怒ったり大声をあげたりすることはあります。今でも。

行政からのお知らせや親の会代表から、二次避難はどうですか？（する？しない？）という連絡が来ました。今の状況に期限がある訳ではないのでそれも有りかな、とも思いましたが、元々ショートステイが好きではなく、自宅が一番と思っている長男が二次避難先でどうなるか、今よりもストレスが溜まるのではないか。そんな心配があるのなら、不便でも顔見知りが多くいて楽しく過ごせる地元にいるのがいいのかなあ、と思ったのが1つ。私たちには直せば住める家があるので、大勢の人がいる避難所で炊き出しやその他の手伝いをして、少しでも地元の皆さんのお役に立ちたい、というのが2つ目。3つ目は、パン職人の次男が今年3月着工・7月完成・8月パン屋をオープンする予定で（この地震のため予定は未定になりましたが）何にもなくなった寂しい町を少しでも活気づけたい、買い物に行けないご老人のために近くで食べる物や休む場所を提供できるようパン屋オープンを目指したい（次男と私2人で営む店です）、自宅でのパン作りを早く再開してみんなでがんばろう！という気持ちで、共に支え合えたらいいな。この3つが二次避難をせずここにしよう！と決めた理由です。

この決断が絶対に正しいとは思っていませんが、少しずつ夢に向かって前へ進んでいます。3月4日からパンを焼き始めました。水が出るまでは多くの種類のパンは焼けません。支援物資としていただくパンよりは安心安全なパン。それを私と一緒に届けに行き、先々で話をするのが好きな長男の楽しみも復活しました。完全復興するには何年もかかりますが、ここに居らずに復興はないと思いますので、家族・地元の皆さんと共に明るい未来を目指して一歩ずつ歩んでいきます。

輪島市父母の会会員のみならず、また再開できる日を楽しみに待っています。また、全国のみなさまからご支援をいただいたことに対し、このページをお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。



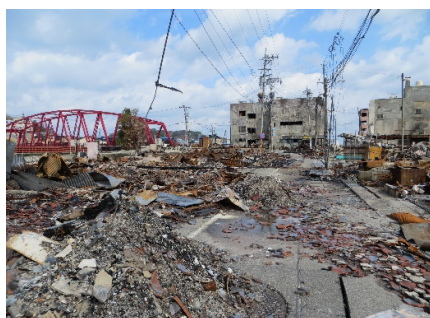
輪島市 藤田 由香里

4時6分、5強の地震。「揺れたね、怖かったね」って話をしていた時に二度目の地震。ソファでくつろいでいた勇輝が私にしがみつき、私も勇輝を支えながらソファにつかまっているのがやっとの状態。一度目の地震とは比べ物にならない揺れ。食器が落ちる音、家電が落ちる音を聞きながらなかなか止まらない揺れの中、いつになったら止まるのだろう。このままでは家が潰れる。天井が落ちてきたらどうすればいいのかと、怖くて仕方なかったのですが、勇輝が悲鳴をあげているため、「大丈夫だよ、大丈夫だよ」と、ずっと声をかけていました。

揺れがおさまり、電気が消え、テレビの情報も入らず、この揺れでは津波が来るかとも思い、とりあえず二階へ勇輝を運びましたが、この高さではダメだと、高台へ車で避難しようと玄関に向かいました。幸いにも玄関の扉が壊れて外側へ倒れていたため、すぐに家から出ることが出来ましたが、ビルは倒れ、電柱も倒れ、家は倒壊しており動くことが出来ず、もう一度家に戻り車いすに乗せて近くの避難所に向かいました。避難所までの道も家が倒壊し、拾った板で瓦やガラスを避けていたら、そこにいた人たちも一緒に避けてくれて、車いすが通れるように手伝ってくれました。避難所に着いてからは、若い人たち数人が三階まで車いすごと運んでくれて、感謝の気持ちでいっぱいでした。

避難所では、1日、2日と食料ももらえず、勇輝の兄が家に戻り非常食を持ち出してきて、勇輝には缶詰のパンと、水を入れて作るご飯を食べさせました。余震の回数も多く夜も眠れないようでしたが、一番困ったのはトイレでした。トイレに行くまでの廊下にもたくさんの避難者の方がいて、トイレに行くまでに「すみません」と何度も言って通してもらいました。水も流れないため、ひどい状況のトイレで、尚且つ皆さんに通してもらおうのも申し訳なくなり、部屋で毛布をかぶって携帯トイレで何度かさせました。津波の心配がなくなった後も、家から火災現場から近いため戻ることが出来ず、3日の午前中まで避難所で過ごし、金沢にいた父親が片道7時間かけて迎えに来てくれたため、勇輝を南陽園に戻すことが出来ました。南陽園のスタッフさんに、「勇輝くんのことはお任せください」と言ってもらい、とても心強く安心しました。

今回の地震で、障害を持った子を避難させることの難しさなど痛感しましたし、今回は海の隆起により津波は来ませんでした。珠洲などの津波到達時間を考えますと、避難は間に合わなかったと思われます。今後、勇輝が帰宅している時の避難など、日ごろから考えておかないといけないと思いました。



輪島市 坂下 喜美恵

此度の地震では、発災後すぐに肢体不自由児者父母の会の会長様をはじめ、事務局の皆さま、会員の皆さまに力強い励ましのお言葉やご支援を頂き本当にありがとうございました。

避難所での余震の中、とても心強く思いました。輪島の会員は、命が助かったものの家が壊れて住めず、金沢に避難した人、ボランティアの皆さまと一緒に家を直している人、少しだけ仕事を再開した人もいます。大きな災害では人生が変わってしまうものだと痛感しました。

私たちの子ども達は施設や避難所で暮らしています。肢体不自由児者父母の会の皆さま、行政の皆さま、地域の皆さま、全国の皆さま、外国の皆様……。ここに書ききれませんが、皆様に感謝です。ありがとうございます。

個人的に……。避難していますが、輪島愛があり田舎者なので帰りたくて落ち着きません。自宅も実家も住めないのが無理なのですが、今朝も地震がありました。地震よ、止まれ！

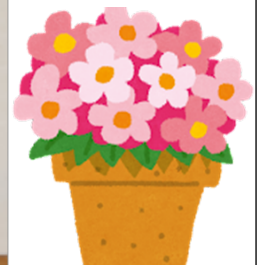
❀❀❀ 二十歳のつどい ❀❀❀



元日の能登半島地震発災のため開催について検討しましたが、参加予定の新成人が金沢市周辺の方々ということもあり、予定通りに1月14日(日)石川県社会福祉会館大ホールにおいて、保護者・来賓・ボランティア・協会役員の出席のもと「二十歳のつどい」が行われました。

今年は新成人3名とご家族を囲んで、県立いしかわ特別支援学校 杉江校長先生、県立明和特別支援学校 濱崎教頭先生からご祝辞を頂き、その後、特別支援学校の先生方で組織される『With(ウイズ)』によるミニコンサートやビンゴゲームを楽しみました。

これまで数多くの困難や労苦を乗り越え、努力を積み重ねてきた新成人や、それを支え見守りながら共に歩んできたご家族の方々とのお祝いは、保護者の方々のこれまでの苦労話や喜びのことに涙する場面や、新成人による感謝と今後の抱負に参加者一同感激する場面も多々見られました。



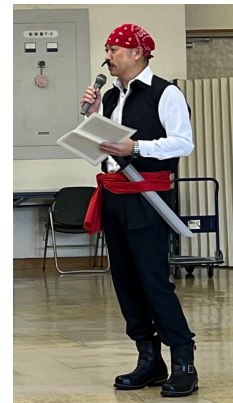
福田真也さん



北山由誠さん



滝野裕生さん



地区父母の会だより

●白山市父母の会 竹田 優子

今年度も野々市市父母の会との交流と「ノーマネットはくさん」の家族部会への参加を致しました。野々市市父母の会との交流では、親子ともども年齢が上がってゆくにつれ、その過程でいろいろな問題が出てくるものだと感じました。

「ノーマネットはくさん」の活動では、金城短大に出向き保育を学ぶ学生に障害者のことを少しでも理解してもらえるように話をさせていただきました。福祉の方面にも就職先を選んでくれるとありがたいと思います。そして当事者部会との交流では、障害者ご本人からの声が聞けました。①社会の中で人との関わりが少ない。②災害に遭った時の避難の仕方や要望。③自分からはなかなか声をかけられないので、相手から声掛けをしてもらえると助かる。等々、とても貴重な会でした。

また、初めて白山市議会議員の方々との懇談会も開かれました。参加者も多く①グループホーム等の居住支援が少ない。②事業所等の職員不足。③ショートステイをなかなか利用できない。④医療的ケア者の預け先がない。⑤福祉避難所をたくさん作ってほしい。他にも障害者の生活の安全面から、外国人の受け入れ基準や減税の声もありました。

白山市からはこんな具合です。ノーマネットは参加者も増えているように思いました。

●津幡町父母の会 宮本 真衣子

一番大きな出来事は、全肢連のさわやかレクリエーション活動助成を受けて「ラフの会 Happy Xmas」が開催できたことです。事務局から、「今年はラフの会で助成を受けてはどうか」と言われ、とても大変だと聞いていたので、一度考えさせて頂きました。会員と相談し、せっかくの機会だからとお願いすることにしました。12月17日(日)13時~15時まで、津幡町文化会館シグナスにて、会員・家族・ボランティアの総勢16人にて開催できました。

当日は、各家庭で思い思いの飾りを購入し、飾りつけを全員で行いました。そこからもうすっかりクリスマス気分です！読み聞かせ、ミニコンサート、サンタさんからのプレゼント渡し。あつという間の一時でした！助成して頂き、本当にありがとうございました。以下に会員の感想を抜粋します。

- ・広い会場で飾りつけなど大変でしたが、準備~片付けが皆でき、全員で作り上げる雰囲気ですごくよかったです。
- ・娘は大喜びで声を出してはしゃいでいました。
- ・サンタさんからのプレゼントの中に何が入っているか気になりました。
- ・会員の皆さんと温かくて楽しい時間を過ごすことが出来ました。



●能美市父母の会 百津 秀代

コロナ感染症も5類感染症へ移行となり、県内も少しずつ以前の活気を取り戻していくように感じられた1年でしたが、個人的には35年勤めた会社を整理解雇となり、再就職の為の職業訓練や、二世帯住居で暮らす義父母の入院、介護保険申請、通院等サポートに追われているうちに夫と長男のコロナ感染、自分自身も膝や歯、血圧などあちこちに不具合が出て、環境的にも肉体的にも多くの変化と課題を抱えた年でもありました。

幸い次男は平日にはグループホームでお世話になっているので、家族のコロナ感染時も悩むことなく距離をおいて生活することができたし、私の膝の状態が悪い時も平日は介助の必要がなく、週末は家族と一緒に介助できるので、家族だけじゃなく頼れる場所があることが本当にありがたかったです。

現在、平日は小松市のグループホームから加賀市のデイサービスに通い、金曜夜から日曜迄を能美市の自宅で生活しています。コロナ禍ではマスクができず、バスに乗れなかったのが、毎週末ドライブでテイクアウトのお弁当や食材を景色のいい河原や公園で楽しむのが習慣になっています。今年は大好きなバスに乗れたらいいなと思います。

●かほく市父母の会 森下 京子

今年度は5月17日のオンライン総会で始まりましたが、子供たちも大きくなり、保護者(母)も仕事を始める方や、兄弟たちの学校生活で忙しくなるなど、定例会や行事の参加人数が減って開催できないことも多くなってきました。こんな風になってきたこともマイナスではなくプラスの変化だと捉えています。それでも、7月には3年ぶりに行われたサマーフェスタinかほくに模擬店を出し、10月にはさわやかレクリエーションで、3市町で企画をして、当日は他市町の方々とも笑い合っただけで久しぶりに新鮮な気持ちで楽しむことができました。12月には恒例のクリスマスパーティーで本格イタリアンのコース料理に舌鼓を打ちながら和やかな会話を楽しみ、成人を迎えた方にもお祝いの品を渡すことができました。

元日を襲った能登半島地震の被害は、断水や家屋の亀裂、作業所の閉所(1か月)、体調の崩れなどの報告がありました。

これからの活動は、会員の皆さんと相談しながら無理なく活動を続けていきたいと思っています。協会の会長はじめ役員の方々、事務局の方には、いつも温かく応援してくださりありがとうございます。令和6年もどうかよろしく願いいたします。

●内灘町父母の会 船本 礼子

総会後に役員会を3回行いました。今年度は、百万石文化祭が石川県で開催され、内灘町の文化会館で11月12日に群読ミュージカルが行われるということで、会員で行ける親子にチケットを渡して鑑賞してもらいました。とても楽しい一時でした。

秋に予定していた座談会を3月9日に行うことができました。トータルシステムの山崎氏をお呼びして「シーティング」の勉強をしました。シーティングとは何ぞや?!から始まり、考え方や車いすの選び方とクッションの違いも話してもらいました。それぞれ身体が違い、決めるにあたっての難しさと、優先順位をつけてどう選んでいくか?良い姿勢も人それぞれ違うので、本当に奥が深く、また勉強していかなければイケナイ課題です。新年会ができなかったのも、オードブルを用意しました。

来年は、もっと行事ができることを願っています。

●野々市市父母の会 林 弥生

会員それぞれに色々ありました。年齢が上がるにつれ身体的な悩みがあったり別れがあったり、そして新しい命とのあい、喜びがあったりと少しずつ生活の中にも変化をもたらしました。親の高齢化で認知症に関する事だったり、離れて暮らして介護ができないことだったり、家族が亡くなる事での別れは子供の気持ちの中にも少し不安を残しました。

そんな中でお孫さんが誕生したことで可愛い写真を皆で見ると喜びを共有したりしました。これも毎月一度は必ず集まって1時間半くらいですが近況を話したりする雑談の中で、問題があったときは知恵を出し合ったり、新しい知識を得たりすることが出来ます。体力的にも以前より衰えてきたり故障が出てきたりしていますが、目標を掲げて生活してみたり、推し活を楽しんでみたりとか会員それぞれが頑張ってきた一年です。もうすぐ今年度も終わりですが、令和6年度に向かって新たにステップアップです。

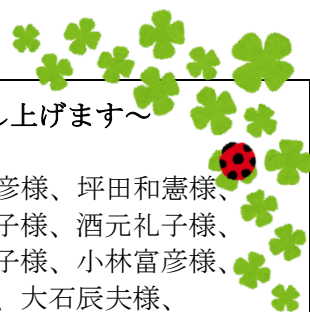
●金沢市父母の会 高松 昌一郎

永井陽子さんに金沢市との段取りをしていただき、「もぐもぐゴックン教室」を昨年12月にテーマ「日常で活用できるソフト食を作ってみよう～咀嚼・嚥下に考慮したレシピの提案～」講師には、管理栄養士 荒清 美咲氏をお招きし、調理実習を行っております。ご参加いただきました皆様に感謝申し上げます。



1月1日には能登半島地震が発生し、金沢市内においても被害が報告されています。そんな折、3月3日に金沢市障害者施策推進協議会・市民フォーラム実行委員会主催で市民フォーラム「災害時、あなたは誰とどこに避難しますか?」が開かれました。その中では福祉避難所の話題がでていました。金沢市では福祉避難所が非公表になっており、災害が発生した場合、私たち障がい児者とその家族は地域の拠点避難所に避難し、金沢市の判断のもと指定された福祉避難所に移動するというルールになっていると聞きます。拠点避難所には多くの避難者が集まることが想定され、バリアフリーでない避難所もあるかもしれません。自治体では、「個別避難行動計画」や「福祉避難所」についての議論もなされているようです。私たちも一緒に考えていきましょう。

～ お 知 ら せ ～



H S K 1994年8月4日 毎月12回 (1. 第三種郵便物承認 10. 13. 15. 18. 20. 23. 25. 28日) 発行

令和6年度能登半島地震へ ～皆さまの温かいご支援、ご協力に感謝申し上げます～

- ① 石川県肢体不自由児者父母の会連合会へ義援金をいただきました。
 林 和子様、張田令子様、堀内幸美様、近藤佳代様、富田幸二様、松田和彦様、坪田和憲様、
 端井悟志様、天田 智様、今井清博様、野島 悟様、紺谷實様、上田由美子様、酒元礼子様、
 紺井好美様、金子聡子様、山田直美様、宮本寛菜様、宮本良一様、高木法子様、小林富彦様、
 堀部一雄様、高西穂乃実様、野々市市父母の会、島手そうめん販売(株)様、大石辰夫様、
 高松昌一郎様、中田裕子様、干場一功様、社会福祉法人えのき会有志一同様(京都)、白山市
 父母の会様
 ※全国肢体不自由児者父母の会連合会へ全国や各地域の父母の会から多数の義援金が届けられて
 います。(後日、全肢連情報で報告されます。)
- ② 物資提供いただきました。
 大石辰夫様、メントジャパン合同会社 石田智恵様、島手そうめん販売(株)様

令和6年度 理事会・常任理事会
 日 時：4月25日(木) 13:30～14:30
 場 所：金沢市教育プラザ富樫
 1号館3階 131室
 出席者：役員、理事、常任理事

第68回 定期総会について
 日 時：5月23日(木) 11:00～14:30
 担 当：金沢支部父母の会
 会 場：金沢市教育プラザ富樫
 3号館2階 321室
 内 容：式典の部、総会、講演会

東海北陸ブロック 三重大会
 日 時：6月8日(土)～9日(日)
 会 場：
 グランドメルキュール伊勢志摩ホテル&スパ
 (三重県志摩市磯部町の矢字笠取 939-6)

第57回全国大会 奈良大会
 日 時：9月14日(土)～15日(日)
 会 場：なら100年会館 (JR奈良駅前)
 情報交換会：ホテル日航奈良 飛天の間

- 県・市関係**
- * 第24回石川県障害者スポーツ大会・・・5月12日(日)～6月2日(日) 競技別に分散開催
 - * 県障害者ふれあいフェスティバル・・・9月29日(日) 産業展示館4号館予定
 - * 金沢市福祉のつどい2024・・・10月6日(日) 松ヶ枝緑地・福祉館見込み
 - * 県肢連・会員交流さわやかレクリエーション・・・10月中 担当：野々市市・白山市父母の会

ご寄附をいただきました ～心より感謝申し上げます～
 金沢市校下婦人会連絡協議会 様、石川県信用組合協会 様
 NBCユニバーサル・エンターテイメントジャパン合同会社 様
 石川県共同募金会 様、樋口日出夫 様、林 和子 様

編集後記

今年度最後のステップは、50号の節目を迎える
 ことができました。これも会員の皆さまの日頃より
 の活動とご協力の賜物と感謝しております。
 今号では、能登の会員さんに能登半島地震につい
 てお話を伺いました。そして、地震から間もない時
 期ではありましたが、無事に行われた二十歳のつど
 いの様子、今年度の各地区父母の会の活動報告など
 ページ数を増やして全ページカラーでお届けしま
 した
 ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました
 した。次年度もよろしくお願いたします。
 作成スタッフ一同

＊＊ お問い合わせ・ご連絡 ＊＊
 お気軽にお電話ください。

編集人：石川県肢体不自由児協会
 石川県肢体不自由児者父母の会連合会
 連絡先：〒920-8557 (事務局)
 金沢市本多町3-1-10
 石川県社会福祉会館内
 電話・FAX 076-224-6126
 Eメール ishikawakenshiren@movie.ocn.ne.jp
 発行人：北陸障害者定期刊行物協会
 富山市今泉312 定価 50円